



## E コマンド

---

この章では、E で始まる Cisco NX-OS マルチプロトコル ラベル スイッチング コマンドについて説明します。

# exclude-address

ラベル スイッチド パス (LSP) の計算で TE が使用を避ける必要があるトラフィック エンジニアリング (TE) の明示パスを設定するときに IP アドレスを指定するには、**exclude-address** コマンドを使用します。

**exclude-address** *ip-address*

## 構文の説明

*ip-address*                      リンク アドレスまたはノード アドレス (ノードの TE router-ID)。

## デフォルト

なし

## コマンド モード

明示パス コンフィギュレーション モード

## サポートされるユーザロール

network-admin  
vdc-admin

## コマンド履歴

リリース	変更内容
5.2(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

プライマリとバックアップのトンネル パスは、両方ともダイナミックにも明示的にも設定でき、**exclude-address** を使用する必要はありません。バックアップ トンネルは保護対象のリンクまたはノードを回避する必要があるため、**exclude-address** コマンドを使用する必要があります。

**exclude-address** コマンドを使用してバックアップ トンネルのパスを指定するときは、インターフェイス IP アドレスを除外してリンクを除外する (Next-Hop (NHOP) バックアップ トンネルを作成する場合) か、ルータ ID アドレスを除外してノードを回避する (Next-Next-Hop (NNHOP) バックアップ トンネルを作成する場合) 必要があります。

このコマンドには、MPLS Services ライセンスが必要です。

## 例

次に、明示パスの設定中に除外するアドレスを指定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# mpls traffic-eng configuration
switch(config-te)# explicit-path name avoid-protected-link
switch(config-te-expl-path)# exclude-address 3.3.3.3
1: exclude-address 3.3.3.3
switch(config-te-expl-path)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>interface tunnel-te</b>	トラフィック エンジニアリング (TE) インターフェイスを設定します。

# exp

メンバー トンネルで転送される EXP ビットを設定するには、**exp** コマンドを使用します。

**exp** [*list-of-exp-values*] [**default**]

## 構文の説明

<i>list-of-exp-values</i>	インターフェイス用に許可された EXP ビット。最大 8 つの EXP 値をスペースで区切って入力します。値の範囲は 0 ~ 7 です。デフォルトは設定されていない EXP 値、または特定のメンバー トンネルです。
<b>default</b>	(任意) デフォルトのトンネル番号を指定します。

## デフォルト

メンバー トンネルは、同じバンドルの一部である他のメンバー トンネルによって転送されていない、EXP ビットが設定されているパケットを転送します。

## コマンド モード

cbts-member コンフィギュレーション モード

## サポートされるユーザロール

network-admin  
vdc-admin

## コマンド履歴

リリース	変更内容
5.2(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

次のトラフィック エンジニアリング (TE) コマンドは、Class-Based Tunnel Selection (CBTS) メンバー トンネルには設定できません (**auto-bw**、**autoroute**、**backup-bw**、**description**、**destination**、**fowarding-adjacency**、**inherit**、**source**)。

このコマンドには、MPLS Services ライセンスが必要です。

## 例

次に、メンバー トンネルで転送される EXP ビットを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface tunnel-te 1
switch(config-if-te)# cbts-member tunnel-te 251
switch(config-cbts-member)# exp 5
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>interface tunnel-te</b>	トラフィック エンジニアリング (TE) インターフェイスを設定します。

# explicit-null

暗黙的ヌル ラベルの代わりにアダバタイズされた明示的ヌル ラベルを設定するには、**explicit-null** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**explicit-null** [**for** *prefix-list* | **to** *prefix-list* | **for** *prefix-list* **to** *prefix-list*]

**no explicit-null** [**for** *prefix-list* | **to** *prefix-list* | **for** *prefix-list* **to** *prefix-list*]

## 構文の説明

<b>for</b>	(任意) 宛先プレフィックスの制御を指定するプレフィックス リストを指定します。
<i>prefix-list</i>	(任意) プレフィックス リスト。
<b>to</b>	(任意) ラベル配布プロトコル (LDP) ピアの制御を指定するアクセス リストを指定します。

## デフォルト

なし

## コマンド モード

LDP コンフィギュレーション モード

## サポートされるユーザロール

network-admin  
vdc-admin

## コマンド履歴

リリース	変更内容
5.2(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、MPLS Services ライセンスが必要です。

## 例

次に、出力ラベル スイッチング ルータ (LSR) で明示的ヌル ラベルを設定する例を示します。これで、その LSR は隣接するすべての MPLS ルータに明示的ヌル ラベルをアダバタイズする例を示します。

```
switch(config-ldp)# explicit-null
switch(config-ldp)#
```

次に、明示的ヌル ラベルを設定し、プレフィックス リストと **for** キーワードを指定する例を示します。

```
switch(config-ldp)# explicit-null for prefix-list
switch(config-ldp)#
```

次に、明示的ヌル ラベルを設定し、プレフィックス リストに **to** キーワードを指定する例を示します。

```
switch(config-ldp)# explicit-null to prefix-list
switch(config-ldp)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<code>mpls ldp configuration</code>	マルチプロトコル ラベル スイッチング (MPLS) ラベル配布プロトコル (LDP) を設定します。

# explicit-path

tunnel-te ラベル スイッチド パス (LSP) で使用される IP 明示パス、または TE トポロジ データベース からダイナミックに計算されたパスを設定するには、**explicit-path** コマンドを使用します。システムをデフォルトの状態に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**explicit-path** {name *path-name* | identifier *number*}

**no explicit-path** {name *path-name* | identifier *number*}

## 構文の説明

<b>name</b>	明示パスを名前指定します。
<i>path-name</i>	パス名。最長で英数字 63 文字です。
<b>identifier</b>	明示パスを番号指定します。
<i>number</i>	ID 番号。有効な範囲は 1 ~ 65535 です。

## デフォルト

なし

## コマンドモード

TE コンフィギュレーション モード

## サポートされるユーザロール

network-admin  
vdc-admin

## コマンド履歴

リリース	変更内容
5.2(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、MPLS Services ライセンスが必要です。

## 例

次に、名前付き IP 明示的パスまたは TE トポロジ データベースからダイナミックに計算されたパスを使用するようトンネルを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# mpls traffic-eng configuration
switch(config-te)# explicit-path name avoid-protected-link
switch(config-te-expl-path)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>mpls traffic-eng configuration</b>	マルチプロトコル ラベル スイッチング (MPLS) トラフィック エンジニアリング プロトコル (MPLS-TE) を設定します。